広島・草戸千軒町遺跡

1　所在地　広島県福山市草戸町

2　調査期間　第二八次―一九七九年（昭54）一二月一日～八〇年一〇月二八日　第二九次―八〇年一〇月二九日～八一年六月一八日

3　発掘機関　広島県草戸千軒町遺跡調査研究所

4　調査担当者　広島県草戸千軒町遺跡調査研究所代表　松下正司

5　遺跡の種類　集落跡

6　遺跡の年代　平安～江戸時代

7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

本年度は、第二八・二九次調査として東西七五m×南北四〇mの三〇〇〇m²を遺跡包蔵中州中央部で実施した。前年度と同様柵と溝その他を検出し、遺構が複雑に錯綜していることがわかった。

墨書木札類はSE一八五〇から削屑四一点・呪符二点・断片二点の四五点を検出したのを始め、SK一八九〇から八点、SG一七九一から一一点等八遺構から七〇点が出土した。

SE一八五〇は径約二・一mの円形掘形のほぼ中央に一辺約九五cmの方形横桟型の井側を据えたものである。SK一八九〇は長径二・八m×短径一・七mの長円形をした土壙で、底部および落込み部に木質が堆積しており、漆椀や折敷など多くの木製品が出土した。SG一七九一は前年度の第二七次調査分と合わせ東西約三一m×南北一五～八mの長方形をした池で、土師質土器の他に下層の暗灰色粘土層から多くの木製品や草履が出土した。次に列記したものは伴出遺物から室町時代中期頃のものと推察される。

8　木簡の釈文・内容

墨書木札類は七〇点が出土した。内訳は、中世木簡（5）・（9）など）五点・塔婆および呪符（2）・（3）など）三点・折敷および折敷片に墨書のあるもの（4）・（8）など）五点・用途未詳の木製品に墨書のあるもの三点（1）・（6）・（7）・断片九点・削屑四五点である。このうち中世木簡には全て板材で、長方形の材に墨書のあるものが一点・長方形の材に穿孔したもの一点・長方形の材の一端を尖らせたもの二点（以上板材）・表面長方形の材を削り穿孔したもの二点がある。

SD一九二〇

（1）「きれハやふ
るる
ふる□
わも　」　89×(74)×13　195

SE一八五〇

（2）「
ᵗ金剛力士□×　(125)×20×02　189

金剛力士はその智恵によって煩悩を打砕くと言われるが、この札で具体的にどのような呪いを行ったのかは不明である。

(3)
「□阿天形星」　163×13×02　189

一般に天刑星と記される道教の神で、『地獄草紙』には牛頭天王やその他の悪鬼を酢に浸して食すると見え、疫鬼を退治する神として請来されていたようである。ところが後には痘瘡の神である牛頭天王と同一視されたようで、また産生の神ないし夫婦の好しみを結ぶ媒神へと推移していったものと思われる。なお、草戸千軒町遺跡のSE三八〇や和歌山県中之荘遺跡から類例の報告がある。

(4)
「都□□□□」（暈滴）　170×(26)×02　170

SE一九八〇

(5)
「乃むし□
　　むし
　　の□□
　　つ□
　　むし　」　121×108×11　100

筆致は繊細である。内容が不明のため断定はできないが、荷札・付札とは考えにくい。

SG一七九一

(6)
「二」　37×18×02　195

(7)
「二」　47×20×02　195

共に形状は小形長方形の一端を圭頭にしたもので、将棋の駒に酷似する。用途は未詳であるが、遊戯具に用いたものかもしれない。

(8)
・「観世音菩薩
　　□※の
　八幡大菩薩
　　※天
　牛頭天王
　□
　□（花押）
　□（花押）
　□（花押）
　観□
・「おもひ□や□□□（花押）
　　□のや□
　　観せ
　　の□や風□
　　□□□
　　□□
　　□□する□を
　　□□　」　184×223×3　170

（※印は先に記された墨書）

一度書いた上に更に墨書したもののようである。記載の八幡大菩薩は「人の国よりは我国、人の人よりは我人」というような託宣を通じて広く民衆に支持され、牛頭天王は疫病や病虫

害をもたらす御霊の統御神として広く信仰されたようである。

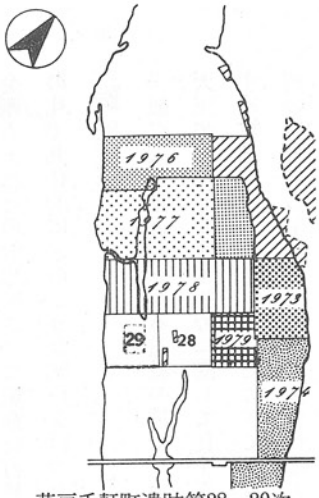
SK一八九〇

(9)「もち上□□」　(114)×26×04　120

9　関係文献

小田原昭嗣「草戸千軒町遺跡第28次調査概要」（調査研究ニュース『草戸千軒』No90）　一九八〇年

志田原重人「草戸千軒第27・28次調査出土の墨書木札類」（調査研究ニュース『草戸千軒』No97）　一九八一年　（志田原重人）



草戸千軒町遺跡第28・29次調査区位置図

草戸千軒町遺跡第28次調査遺構配置図